

生物多様性及び生態系サービスの総合評価 2020 (JB03) 目次案

大項目	中項目	小項目
序章	第1節 生物多様性及び生態系サービスの評価が求められる背景	
	第2節 生物多様性及び生態系サービスの総合評価の実施	1. 評価の目的
		2. 評価の対象
		3. 評価の枠組み
	4. 評価の体制	
第I章わが国の自然と社会経済	第1節 わが国の自然環境と生態系	
	第2節 わが国の社会経済状況の推移	
第II章生物多様性の損失の要因の評価	第1の危機	生態系の開発・改変
		水域の富栄養化
		絶滅危惧種の減少要因
		保護地域 (※)
		捕獲・採取規制、保護増殖事業 (※)
	第2の危機	里地里山の管理・利用の縮小
		野生動物の直接的利用の減少
		野生鳥獣の科学的な保護管理 (※)
		絶滅危惧種の減少要因 (第2の危機)
	第3の危機	外来種の侵入と定着
		化学物質による生物への影響
		外来種の輸入規制、防除 (※)
		絶滅危惧種の減少要因 (第3の危機)
	第4の危機	地球温暖化による生物への影響
		絶滅危惧種の減少要因 (第4の危機)

※ 具体的な評価作業は、別添の指標一覧に整理したものをを用いる。ただし、このうちすべての指標が年次更新できるわけではないことに留意が必要。

大項目	中項目	小項目
第III章生物多様性の状態の評価	森林	森林生態系の規模・質
		森林生態系の連続性
		森林生態系に生息・生育する種の個体数・分布
		人工林の利用と管理
	農地	農地生態系の規模・質
		農地生態系に生息・生息する種の個体数・分布
		農作物・家畜の多様性
	都市	都市緑地の規模
		都市生態系に生息・生育する種の個体数・分布
	陸水	陸水生態系の規模・質
		河川・湖沼の連続性
		陸水生態系に生息・生育する種の個体数・分布
	沿岸・海洋	沿岸生態系の規模・質

		浅海域を利用する種の個体数・分布
		有用魚種の資源の状況
	島嶼	島嶼の固有種の個体数・分布
	生態系の連続性	各生態系における連続性
		他の生態系との連続性
第IV章 人間の福利と生態系サービスの変化	豊かな暮らしの基盤	食料や資源の供給
		物理的サービスの変化要因
		過少利用・海外依存による影響
		潜在的な国内資源の活用
	自然との触れあいと健康	大気や水質と調整サービス
		生態系の改変による健康へのリスク
		生物多様性や生態系による健康への貢献
	暮らしの安全・安心	生態系による災害の緩和
		変化しつつある生態系サービスと気象
		地域の特性に応じた安心・安全な地域づくり
	自然とともにある暮らしと文化	多様な自然がもたらす文化的サービス
		失われつつある自然とのつながり
		自然とともにある暮らしと文化の再構築
第V章 生物多様性の損失への対策	第一の危機から第四の危機への対応	第一の危機への対策
		第二の危機への対策
		第三の危機への対策
		第四の危機への対策
	横断的対策	
	対策の基盤	生物多様性の認知度
		自然に対する関心度
生物多様性保全のための取組に対する意識		
第VI章 わが国の生物多様性関連施策の成果		
第VII章 今後の生物多様性及び生態系サービスのトレンド		
第VIII章 総括と今後の課題		